「がんばろう 日本！国民協議会」埼玉読者会 ８月

2023年
第９号

# 自立した主権者をめざして

## Vol.34 身に潜む差別意識

KEYPOINT

- LGBT理解促進法案や入管の問題について、周囲の人とどのような話をしましたか？

SUMMARY

生活の中で自分が抱え込む不満や不安、ストレスを、直接的な原因になるものや人に向けるのではなく、他の対象に向けることでそれらの感情を解消することがあります。外国人やLGBTQ、女性や障がい者への差別行為はなぜなくならないのでしょうか。私たちが無意識に持つ差別意識について、現代特有のインターネットの特徴との関連性も考えてみました。

**お 知 ら せ**

(8月１日発行)1面論文について、構成や流れや受け止め方等をコメントする場をYouTubeチャンネルで配信しています。毎月配信しますのでニュースと併せてご視聴ください。

### 惨事はなぜ世間に広まらなかったか

先日、映画「福田村事件」を観ました。福田村事件は1923年（大正12年）９月６日、関東大震災後の混乱や流言蜚語が生み出した社会不安の中で、香川県からきた薬売りの行商15名が千葉県東葛飾郡福田村（現在の野田市）で自警団に暴行され、９名が惨殺された事件です。当時日本統治時代であった朝鮮では民族独立運動が勃興しており、この事件の４年前、1919年（大正８年）にはデモが朝鮮全土に広がり、弾圧に軍が出動、朝鮮人数千人が虐殺された三・一運動が起きていました。このため日本国内では朝鮮人は日本の言うことを聞かない「不逞の輩」として、差別や弾圧が強まっていたことが背景にあります。震災直後も、関東各地の警察が「朝鮮人に気をつけろ」「夜襲がある」などと発表し、「朝鮮人が集団で襲ってきた」「井戸に毒を入れたのをみた」などという流言飛語が飛び交っていました。異様な緊張感と興奮状態の中、事件の日、福田村の自警団は言葉がよくわからない（讃岐弁）彼らを「朝鮮人」だと疑い、「村を守るため」に殺害をした、ということでありました。この事件は今まであまり知られることがありませんでした。理由のひとつに、殺害された行商人の集団は被差別部落出身でした。そのため加害者側は当然事件を黙殺し、また生存者や遺族（つまり被害者側）側も二次的な差別を恐れて発言をためらったということが考えられます。

### 今も変わらぬ差別の構造

日常生活の不安や不満、マスコミが発信する「朝鮮人」への恐れが、震災という非日常的な状況の中で爆発し、狂気をはらんだ暴動につながったということなのでしょうが、根底にある民族や職業に対する「差別意識」が極限状態での判断を狂わせ、自分の行動を正当化する根拠となったことは間違いありません。

この差別意識はいまだに私たちの心の奥底に潜んでいて、何かの拍子に鎌首をもたげます。例えば新型コロナ流行直後に地方で起こった、「東京のナンバーを付けた車が自分の地域に入ってくるとコロナをまき散らしに来た張本人として追い出そうとする（近所中から陰口をたたかれる）」こと。LGBT理解増進法案が可決されれば、女子トイレに心は女性だと主張する男性が入ってくるのではないか、女性や子供を「守る」ために法案を可決するべきだという動きがおこることなど、毎日のニュースの中で差別を連想する事件は次々に起こります。100年前に悲劇を引き起こした差別意識は今も変わらず、残っているのです。

### 広まることで悪化する差別行為を止めるには

更に、この差別意識から来る暴挙について、現代ならではの問題が考えられます。それは、インターネットの発達です。インターネットが発展、広まるにつれて、その特性を利用した差別が拡散されるようになりました。またネットには時間的・地理的な制約ありません。本来このことは実社会に存在する格差をなくし、人と人が対等な立場で出会い、交流できるメリットでありますが、反面、悪意があれば簡単に誹謗中傷やデマ、差別を発信することができてしまいます。そして事実確認がされないまま拡散が繰り返されていきます。いったん拡散してしまったものを削除するのはほぼ不可能です。

さらに、ネット上では自己表現をしやすいという特徴もあります。例えば「憲法改正についてどう思うか」という問いに対し、対面では「賛成反対のどちらとも言えない」という回答が最も多いのに対し、SNS 上での書き込みは「非常に賛成」や「断固反対」のどちらかをはっきり主張する傾向があります（山口真一（2018）『炎上とクチコミの経済学』朝日新聞出版）。これは、ネットの匿名性という特徴を利用した行動とも思えますが、それよりも投稿した本人が、書いた時点ではそれを誹謗中傷と認識していない可能性があると指摘されています。つまり、車に出ていけと張り紙をしたり、福田村事件のように人を殺害したりという行動を起こした本人は何故そうしたかという理由はともかく自分は何をしたかという自覚はあるのに対し、ネットでの投稿による差別は、それが差別行為であるという自覚すらない状態で無意識のうちに行われる場合があると言えるのです。特定個人に対する悪意のある書き込みも、被害者が自殺に追い込まれるなどの「事件」となった直後に自分の書き込みを削除する現象が多くみられます。しかし明るみに出ない限り、それが攻撃だと気が付かない、気が付いても削除すれば自分に責任が及ばないという考え方が蔓延しているのではないでしょうか。

映画のクライマックスでは、人々が次々と武器を手にし、狂気が波のように高まる様子が描かれていました。きっかけは大震災という非日常。しかし現代では、日々の不満や不安の積み重ねが、小さなきっかけで異様な興奮と自制心の崩壊の渦となり、自覚のないまま爆発的に広がります。

逆に言えば、差別を放置すれば悪化することをネットが可視化したとも言えます。SNS の書き込みに同意して思わずコメントを追加しようとした時、一瞬立ち止まって自分の中に差別意識が潜んでいないか確認をしてください。


〈機関紙「日本再生」No.531の内容〉

2023/8/01 発行

民主主義のイノベーションのための　〝小さなさざ波〟を、どう発展させるか●3-7 面/コラム/一灯照隅●8-11 面/囲む会/「地方選を振り返る」森愛・東京都議ほか●11-13 面/インタビュー/〝あまがさき〟を次のステージに/松本眞・尼崎市長●14-17 面/インタビュー/広島サミット成果と課題/遠藤乾・東京大学教授●18-20 面/インタビュー/日本の産業・財政の課題/諸富徹・京都大学教授※ 機関紙「日本再生」のご購読をご希望の方は下記の連絡先までご連絡ください。


**一緒に考えてほしいこと**

・SNS 上で拡散される差別的な発言を目にしたとき、あなたは何を思い、どうしますか？


【連絡先】「がんばろう、日本！国民協議会」埼玉読者会

住所：埼玉県越谷市大里 226-1　白川ひでつぐ事務所

担当：吉田理子

ganbarou.r.a.saitama@gmail.com


がんばろう、日本！HP　埼玉読者会 note

がんばろう、日本！国民協議会は、「国民主権の発展」「人づくり」「がんばる日本と日本人を回復する国民運動」「自由・民主」東アジアの社会的リーダー層のネットワーク構築および日米同盟の再定義」を目的として活動している団体です。機関紙「日本再生」および各種資料の発行や、例会、定例講演会などの開催、また国民的課題、地域的課題への取り組みなどを行っています。